

集落支援員3年目のふりかえり

～名峰霊山 & 農村RMO～

令和7年12月15日

伊達市集落支援員（霊山地区担当）

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」 事務局長

霊山道先案内人会事務局

かもしか創生舎

浜田 和彦

目次

はじめに

1. 名峰霊山の魅力の発信と発掘
2. 農村RMO活動
 - 1) 農村RMOとは（おさらい）
 - 2) 2年目の実証活動
 - 3) 3年目の実証活動と今後の仕込み
 - 4) 農村RMO活動の振り返りと将来展望

おわりに

はじめに

×本来の集落支援員活動（霊山地区点検）



○名峰霊山の魅力の発信と発掘

○大石地区での農村RMO実証活動（3年目）

1. 名峰霊山の魅力の発信と発掘

1) メディアへの露出



「U字工事の旅発見」
～福島テレビ9月13日放映～



YouTube

縦走コースカメラ初潜入！



「にっぽん百低山」

NHKBSP 4 K 12月16日(火)21時～
NHKBS 12月22日(月)19時～

1. 名峰霊山の魅力の発信と発掘

2)新登山ルート開拓



①北霊山周回コース（11/21調査登山）



②旧県道山麓
縦走コース
(縦走帰り)

* 湧水の里キャンプ場発～着ルートの開発

1. 名峰霊山の魅力の発信と発掘

3) 振り返り

- ☆ 霊山総合支所の全面バックアップ
伊達市振興公社の応援

→ “すごい風が吹き始めている！”

4) 今後の予定

- ☆ イオンモール伊達の訪問客への霊山プロモーション（構想）
 - ・ 名峰霊山の魅力発信ミニセミナーの不定期開催
 - ・ 道先案内人会へのつなぎ、案内機会の拡大 → ファン獲得
- ☆ 山の保全の協働活動（構想）
 - ・ 伊達市、市民、交流者 . . .

2. 農村RMO活動

1) 農村RMOとは（おさらい）

- ・農水省の助成のもと、中山間地域再生のための地域の実験事業
（ビジョン～計画～実証、期間3年）

→令和5年8月

大石地区農村RMO推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」設立

- ・3つの取組カテゴリ



農用地保全

地域資源活用

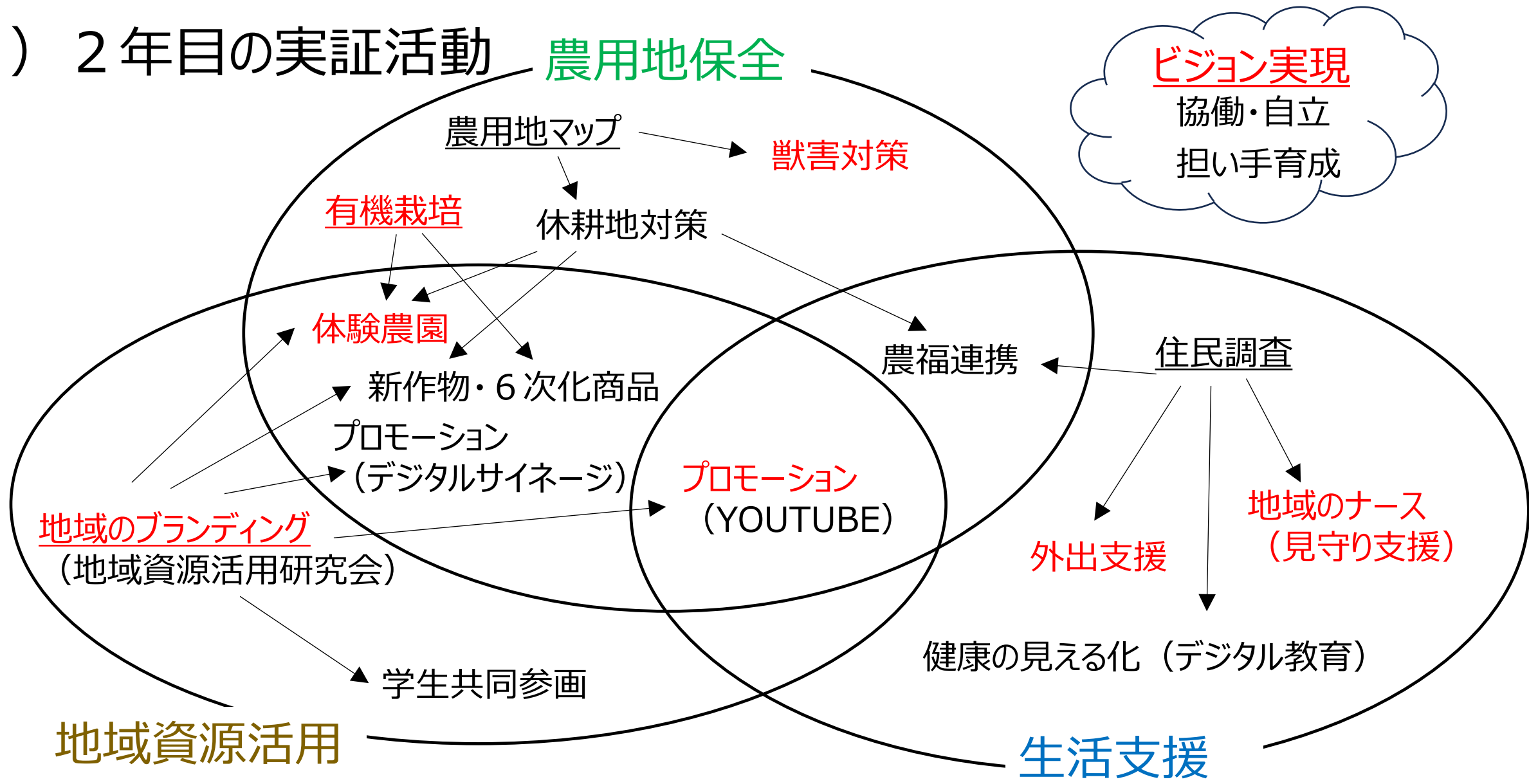
生活支援

- ・住民主導と行政支援をはかり地域の活性基盤を醸成

◎ 活動スケジュール

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
活動期間	申請・受理 ☆7月 協議会発足 1年目（8月～3月）	2年目（8月～3月）	3年目（8月～3月）	
ビジョン策定				
調査・計画				
実証				
	予算：¥530万	予算：¥650万	予算：¥550万	

2) 2年目の実証活動 農用地保全



事業実行のポイント：点→線→面へ展開するためのストーリー作りが重要

3) 3年目の実証活動と今後の仕込み

◎ 主な活動テーマ

① 農用地保全：

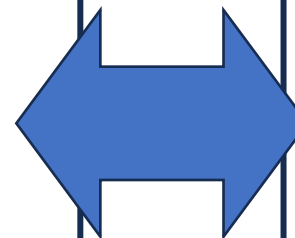
- ・次代を担う人材（新規就農者）の呼び込み・育成
- ・獣害対策
- ・体験農園の活性（別助成事業にて）

② 地域資源活用

- ・地域のプロモーション

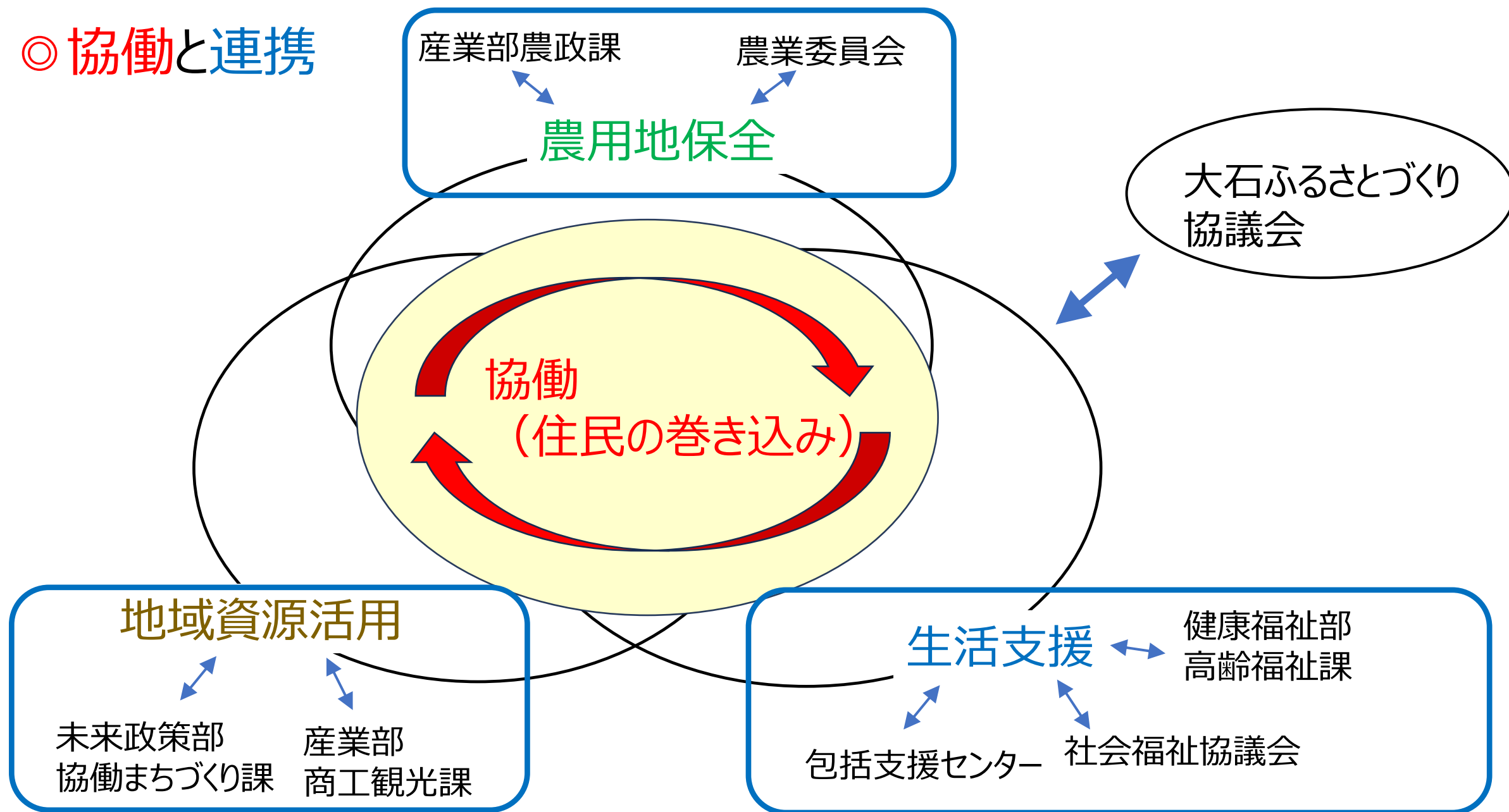
③ 生活支援

- ・外出支援の事業整備
- ・地域のナース導入運営（草の根の福祉）



農村RMO以降の
地域活性基盤
維持と展開模索
(協働と連携)

◎ 協働と連携



<活動事例紹介> 外出支援



事業継続の住民の期待大
→高齡福祉課と相談中
(行政との連携の試金石)

◎免許返納者や一人暮らしの高齡者等を対象
とした期間限定の送迎サービス実証。
(期間：R7 11/10～R8 2/20)

- ・玄関から目的地まで車（レンタカー）による往復利用。距離の限定は特に行わず。
- ・交付金活用の事業なので利用料は無料
(利用者には感想アンケートを記載)
- ・有償ボランティアとして運転手も地元募集
- ・**事務局を一般住民へ移管**、グループラインを活用し、利用者と運転手のマッチング業務を実現
(RMO事務局を介在しない初の実証事業)

→現在、22名の利用登録者、4名の運転手にてサービス実証中。

4) 農村RMO活動の振り返りと将来展望

☆打ってもなかなか響かない住民協働と行政連携

- ・地区の自治会とは一線を画す市民権を持たない任意協議会
(住民：わかりづらい、行政：関わりづらい)
- ・事業を仕掛ける側の体力不足（一緒に考える駒が欲しい）
- ・市外の団体からは講演の引き合いは多いのに、内部（伊達市）から当協議会に対する積極的照会がないのは何故？
(無関心？、余計な事に関わりたくない？)
- ・未来へむけた風も吹きはじめてきた・・(外出支援の展開)

◎ 将来展望

①地域自立において結果をだすには、農村 R M O の 3 年間は短すぎる（地域自立のための基盤の基礎までがせいぜい）

→事業の選択と未来へ向けた持続的成長の仕込みの継続

（×元の木阿弥）

②連携への積極的姿勢

→住民主導の地域づくりにおいて、外部との相互連携が大前提

農村RMOは中山間地域における市政の縮図

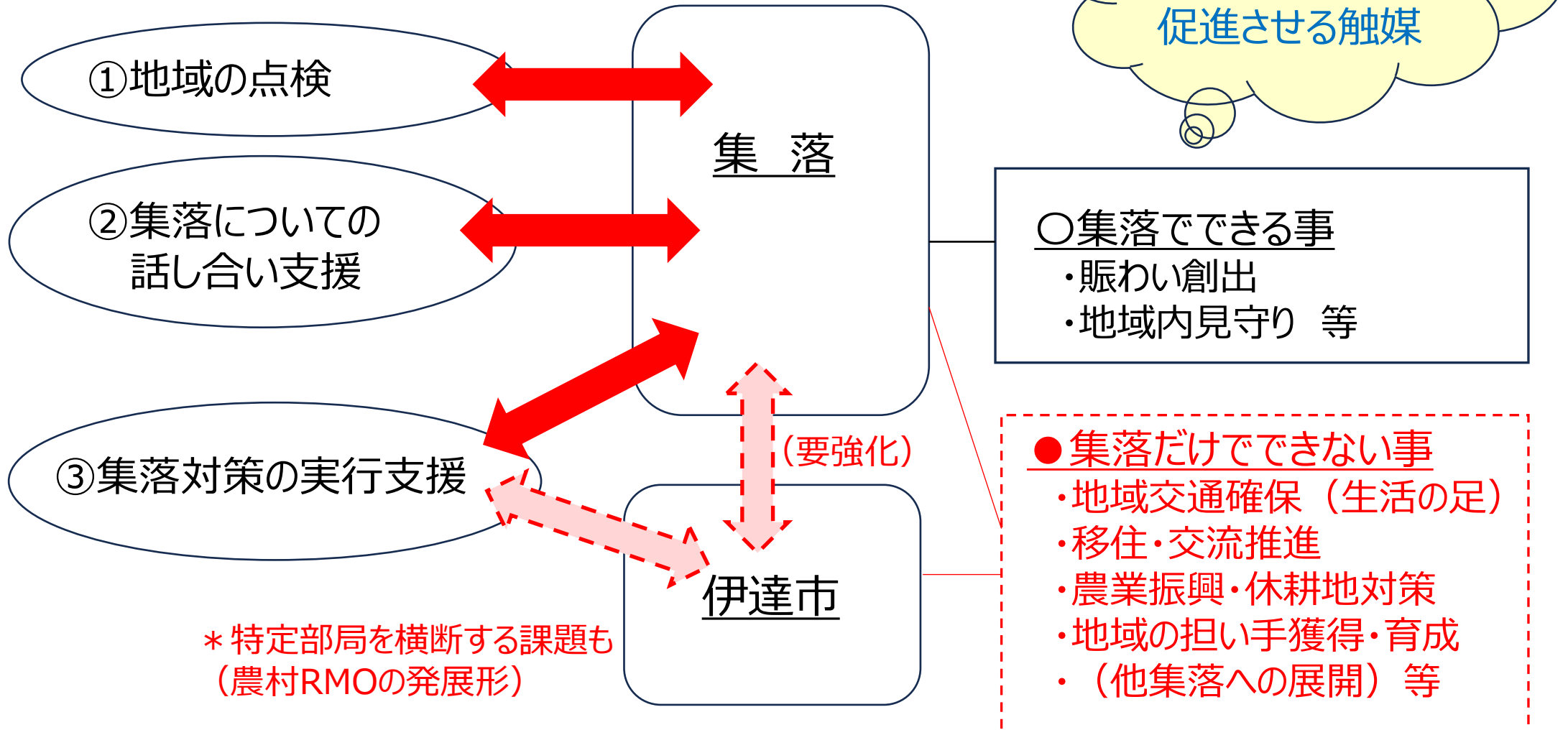
まずは我々の実証事業に関心を持ってほしい

（ 3 0 分コースの講演要請受けます）

傍観→関心→応援→協力→協働の意識・行動改革を！

おわりに ～集落支援員のあり方について考える

<集落支援員の役割>



ご清聴ありがとうございました